



伝統的な飾りから、オリジナルの飾りまで色々なものがあります。



ひな人形の周りにつるして飾っているのが「つるし飾り」です。元は、醤油や味噌を作っていた醸造所など、雰囲気の良い旧商家も展示に利用しています。(撮影:旧山勇商店)

たんさく 七戸町の つるし かざり



七戸町商店街

1. 七戸十和田駅から自動車
で約10分
2. 七戸十和田駅発、十和田
観光電鉄バス三本木営業
所行き、七戸中央(所要
時間約10分)下車すぐ

今回は、七戸町に住む「はばたき」読者の組合員さんから、たんさくで、七戸町のつるしのかざりの紹介はいかが？というお手紙をいただきました。七戸町の「つるし飾り」は同町の商店街で旧暦の3月3日が重なる期間に開催される「しちのへひなまつり」(4月末頃)で飾られています。お手紙をいただいた時、2023年の行事は終わっていましたが、旧暦の9月(10月初旬頃)にもう一度ひな人形をかざる「重陽(ちようよう)の節句」に合わせて展示をしておりましたので、お手紙をくださった組合員さんのご案内で撮影させていただきました。

つるし飾りは、山形県酒田市「傘福」、静岡県稲取市「つるし飾り」、福岡県柳川市「さげもん」など、江戸時代から伝わってきた地域で異なる、傘の先に飾りをつけたものや、紐に連ねひな壇の前に飾る飾りのことなど。「つるし飾り」の「おかざり」は、60種類ほど確認されており、それぞれ意味を持っていきます。例えば、猿は「厄が去る」、鶴は「病気が去る」、羽子板「厄を飛ばす」など、おかざりごとに異なるいわれをもちます。また、これに含まれない十二支などをモチーフにした作品もあります。

つるす「おかざり」は割り切れない奇数でつなげます。例えば、5個つなげた物を5つ組み合わせて25個一組、7個つなげたものを5つ組み合わせて35個一組で作ります。七戸町のつるし飾りは、発起人の方がいた古布の活用を考え、稲取の「つるし飾り」にすることを思い立ち、展示を始めました。「つるし飾り」の本場静岡県稲取で学ぶなどし、現在では、商工会の女性部や町内の工房も参加し、旧暦の桃の節句に愛嬌のあるつるし飾りで七戸の商店街を彩っています。

ぜひ、七戸町へ見に行ってみてください。

青森地域でコープあおもり30周年記念企画を実施しました。



1月20日(土)アピオあおもり 工作室、大研修室2において「30周年記念企画 ダンボリアン&健康度チェックinアピオあおもり」を開催しました。

工作室ではダンボリアンワークショップを開催し、「宇宙生物モグウ」を作りました。『身近にある段ボールの廃材などを利用した造形作品を全国から募り、それを一堂に展示するイベント、それが「段ボール造形の祭典 ダンボリアン」(公式HPより)』を主催する団体から講師をお招きしました。お子様連れのご家族や大人だけの参加もあり、子どもから大人まで楽しむことができました!お子さんからは「モグウがかわいくて、かっこよくつくれたので楽しかったです」や「色々な模様をつけてかっこよくなったので、楽しかったです」といった感想がありました。また、大人からは「とても関心のあったダンボリアンワークショップに参加できて嬉しかったです」といった感想もありました。

五所川原地域と浪岡センターが合同でサニタードライブに取組みました。



2024年2月6日(火)、五所川原市社会福祉協議会へ、五所川原地域と浪岡センターの合同で取り組んだサニタードライブで、組合員の皆様からご寄付いただいたマスクや介護用おむつなどの衛生用品を寄贈しました。

五所川原地域と浪岡センター合同のサニタードライブの取り組みは、2022年に実施されており、2023年は実施前から、2022年に寄付をいただいた組合員さんから継続実施の声が寄せられていました。

2月6日の寄贈式では、五所川原市社会福祉協議会乗田孝一会長へ、五所川原地域代表の小山内さんと浪岡センターの福士センター長から、寄付で集まった物品を寄贈しました。

寄贈した物品は、五所川原おすそわけ便などで活用され、生活に困窮している方などに配布されます。

また、2月17日(土)に五所川原市地域福祉センターで実施されたおすそわけ便のフードパントリー(指定場所の指定時間内に、申込不要で自由に入出力し、好きなものを選んで持ち帰る利用形態)で今回寄贈された物品が必要とされている方へ配布されました。



寄付していただいた物品に添えられていたメッセージの一部をポップにしてみました。